

5-9		主題	願いをあきらめない。初体験の感動で活気向上！	
心身のリハビリ		副題	わが街にできた、念願の新交通システムを体験しよう。	
初体験の感動				
研究期間	14ヶ月	事業所	デイサービスセンター ハピネスあだち	
発表者：酒井 昌人（さかい まさと）			アドバイザー：	
共同研究者：川島 愛子・黒田 直樹・田中 伸幸・羽部 記透				
電話	03-5839-1560	メール	sakai@family-wf.jp	
FAX	03-5839-1502	URL		

今回発表の事業所やサービスの紹介	<p>デイサービスセンター ハピネスあだち（一般型35名・認知症対応型12名）は社会福祉法人ファミリーを母体として、平成18年4月に開設しました。特別養護老人ホーム（全室個室150室）、ショートステイ（全室個室20室）、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、地域包括支援センターを併設し、地域の核となる施設運営を目指し、日々取り組んでおります。</p>
------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>当施設のある地域は、陸の孤島と呼ばれるほどの不便な地域であった。そんなわが街に念願の新交通システムが完成し、利用者より「乗りたい」という声が多く聞かれていた。しかし、「乗る機会がない」「自分だけでは乗ることができない」など、あきらめてしまう訴えも同時に多く聞かれていた。</p> <p>このことだけではなく、新しい体験をすることに消極的になる傾向が利用者に見られていた。</p>
---

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>年齢や身体状況の原因により、あきらめていた願いも、出会いや手段によって叶うことを利用者に体験して頂く。</p> <p>願いが現実となり初体験に感動することで、未来に明るい展望を抱き、活気向上に繋がることを期待する。</p>
--

### 《具体的な取り組みの内容》

#### ■準備■

- 新交通システム運営機関に取り組みの概要を説明し、安全の確認、協力を要請した。
- 職員がシミュレーションを行い、現場の状況を確認しながら、取り組み内容、タイムスケジュールを計画した。
- 利用者全員に、取り組み内容と参加の有無確認を書面で配布し、参加状況を把握した。
- 再度、新交通システム運営機関に詳細の報告及び対応確認を行った。

#### ■実施内容■

- 施設より最寄り駅までは、施設車両にて移動する。
- 新交通システムは無人システムの為、改札にあるインターホンにて乗車することを報告し乗車する。(乗車時間11分)
- 終点駅にて下車し、改札を出る。
- トイレ誘導・記念撮影を行う。
- 新交通システム職員へ乗車車両及び下車駅を報告し、最寄り駅に戻る。
- 最寄り駅より施設車両にて施設へ戻る。

実施期間は二週間(計12回)とし、1回の取り組み所要時間は、1時間30分。

参加人数は、1回10人以下とし、車いすは2台まで。同行職員は5名で実施した。

実施期間内、特に問題なく実施終了する。

### 《取り組みの結果と評価》

実施前より、期待に胸を膨らませる参加者の様子も見られていた。

実施の際も、参加者の笑顔や嬉しそうな様子が多く見られ、「参加して良かった」との言葉も聞かれるなど、願いを叶え、初体験に感動する様子が見られた。

取り組み中撮影した写真を貼り出すと、「私ここに写っているわ」などと、嬉しそうに話す様子や、「また、どこかに連れて行ってね」との言葉が参加者の多くから聞かれた。

今回の取り組み実施に至る一年前、同計画を進めていたが、新型インフルエンザの流行により、実施直前に中止となっていた。このこともあり、感動がより大きくなる参加者も見られた。

#### 《まとめ》

願いが叶い初体験の感動により、活気向上に繋がるという成果を得る事ができ、参加者の「また、どこかに連れて行ってね」という言葉も、未来に明るい展望を抱く、ひとつの成果であると考えられる。

今回だけではなく、今後も取り組みを継続し、研究の成果を観察していく。

#### 《提案と発信》

通所介護における外出行事は、外出時におけるリスクなどにより、当施設でも消極的になってしまう傾向があった。この事は、今回の研究内容と重なる部分がある。外出行事による活気向上は筋力の向上にもつながる、「心身のリハビリ」と考え、研究の成果を今後も期待し積極的に取り組んでいきたい。

#### 【メモ欄】